

漏電って、そんなに怖いのか？

1 感電するとどうなる？

人体に電流が流れたときの反応は、単に電流を感知する程度の軽いものから、心室細動による死亡など様々です。感電時の人体の危険性は、流れた電流の大きさや流れていた時間、あるいは流れた経路などが重要な因子となりますが、電気にはオームの法則があるように、人体に流れる電流の電気回路が同一ならば、電圧が高いほど多くの電流が流れることとなります。

感電電流と人体の生理反応の例を挙げると

1. 0.5~5mA

電流を感知し始め、筋肉がけいれんを起こさない限界。自力で電源から離脱できるが、痛みを感じる。



2. 5~30mA

けいれんを起こし、自力で電源から離れることができなくなる。呼吸困難や血圧上昇が起きるが、数分程度ならば耐えうる程度。



3. 30mA以上

心臓の鼓動が不規則となり、流れる時間が長時間になれば心室細動が発生し死に至る。



2 人体に通電しなくても…

漏電箇所のそばに可燃物（木材など）があると、どうなるでしょう？
大きな電流であれば火災につながります。電熱器など電気が熱に変わるのは、身近な現象です。

電気管理技術者が、月次点検で漏洩電流を管理し、年次点検で回路の絶縁抵抗測定を行うのも、これら電気事故の防止のためなのです。

※漏電遮断器の設置等、詳しくは電気管理技術者にご相談ください。

掲示して、ご利用下さい。



一般
社団
法人

九州電気管理技術者協会